

誰も教えてくれなかった糖尿病患者の 感染症診療

感染症合併例はココに気をつけて！

石井 均 著

＜書評者＞ 稲垣 暢也（京大大学院教授・糖尿病・内分泌・栄養内科学/
日本糖尿病学会常務理事/日本糖尿病協会理事）

2020年、新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）のパンデミックに襲われ、世界は一変した。そして、糖尿病がCOVID-19によって重症化しやすいという多くの報道がなされ、糖尿病患者は不安におびえている。しかし、そもそも糖尿病患者は、血糖コントロールが不良であれば、さまざまな感染症が重症化しやすいことは古くから知られており、COVID-19に限った話ではない。わが国における最近の10年間の調査によれば、感染症は糖尿病患者の死因の第2位なのだ。今回の新型コロナウイルス感染のパンデミックは、糖尿病と感染症の関係についてあらためてその重要性を見直す良い契機となった。

本書は、そのような時期に、糖尿病患者の感染症診療についてま

とめられた、まさにタイムリーな待望の一冊である。

糖尿病患者は、COVID-19だけでなく、インフルエンザや市中肺炎、そして結核などの呼吸器感染症が重症化しやすいだけでなく、尿路感染症、皮膚感染症、胆嚢炎なども重症化しやすい。さらには足壊疽や歯周病にも留意する必要がある。本書は、糖尿病におけるこれらの感染症診療に関する最新の知見を、症例提示も交えながら、わかりやすく解説している。

糖尿病を診療する医師にとって最も重要なことは、患者のリスクを的確に捉え、これらの感染症が重症化する前に、予防や早期に発見・治療することであって、編者の石井均先生が述べておられるように、日常診療の中で、細やかな観察や会話、患者が納得できる丁

寧な説明や情報提供、セルフケアなどの患者教育などが求められるのだ。編者のこの一冊に込められた思いは、まさに、この「医師—患者関係」の重要性にある。

そして、編者も述べておられるように、これらの感染症に関する情報が、糖尿病患者に対する社会的スティグマにつながるのではなく、血糖コントロールを良好に行えば重症化リスクが低減するのだといった正しい情報を発信することにより、社会全体で患者の安全を守るようなメッセージとなることを切に願っている。

● A5 頁192 2021年1月
定価：3,740円
（本体3,400円＋税10%）
[ISBN978-4-260-04351-9]
医学書院刊